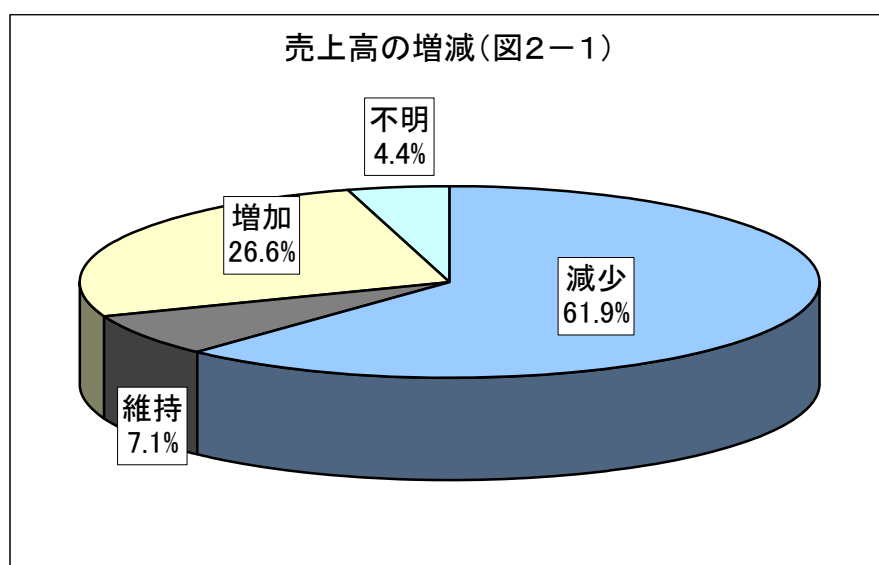


## 2 営業成績の状況

### (1) 売上高の増減

仲卸業者全体のうち、前期に比べて売上高を増加又は維持した仲卸業者は33.7%であった。6割以上の仲卸業者が売上高を減少させており、減少した業者の割合は前年に比べて9ポイント減少した。

※ 前年調査 減少71.1%、維持5.0%、増加20.1%、不明3.8%



売上高の増減を部類別に見ると、青果部では減少した業者に比べ、増加した業者が若干多かった。一方、その他の部類では減少した業者が最も多い結果となった。

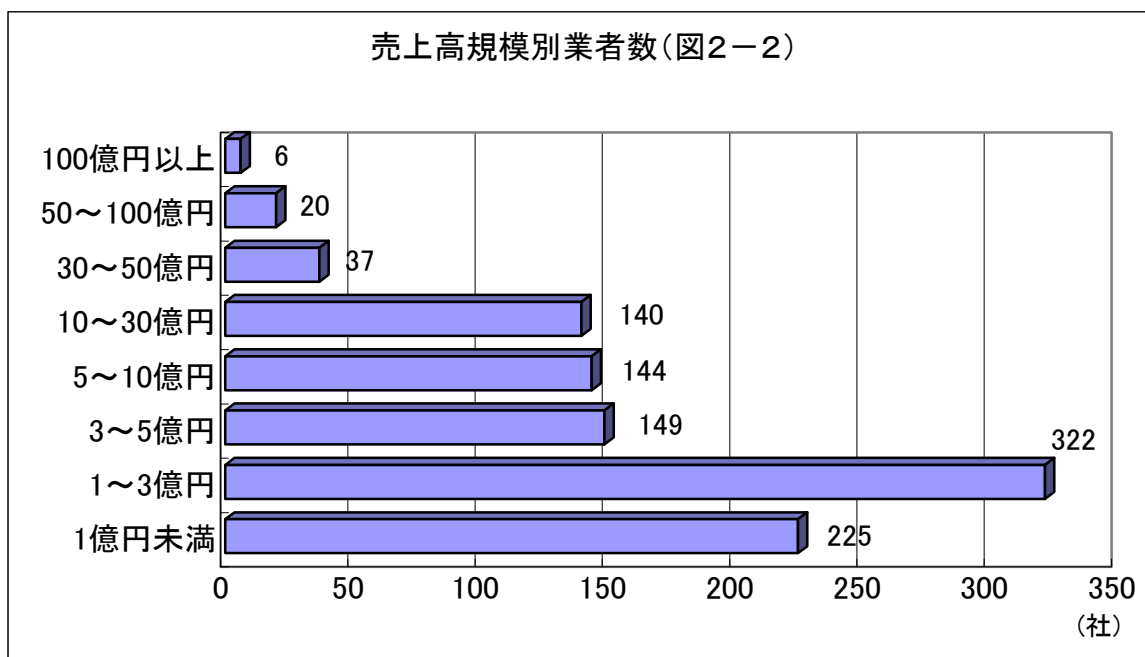
部類別・売上高の増減(表2-1)

	増加した業者	維持した業者	減少した業者	不明
全体	26.6%	7.1%	61.9%	4.4%
水産物部	18.6%	7.2%	70.8%	3.4%
青果部	43.2%	6.7%	42.9%	7.2%
花き部	29.6%	4.5%	65.9%	(-)
食肉部	22.2%	14.8%	63.0%	(-)

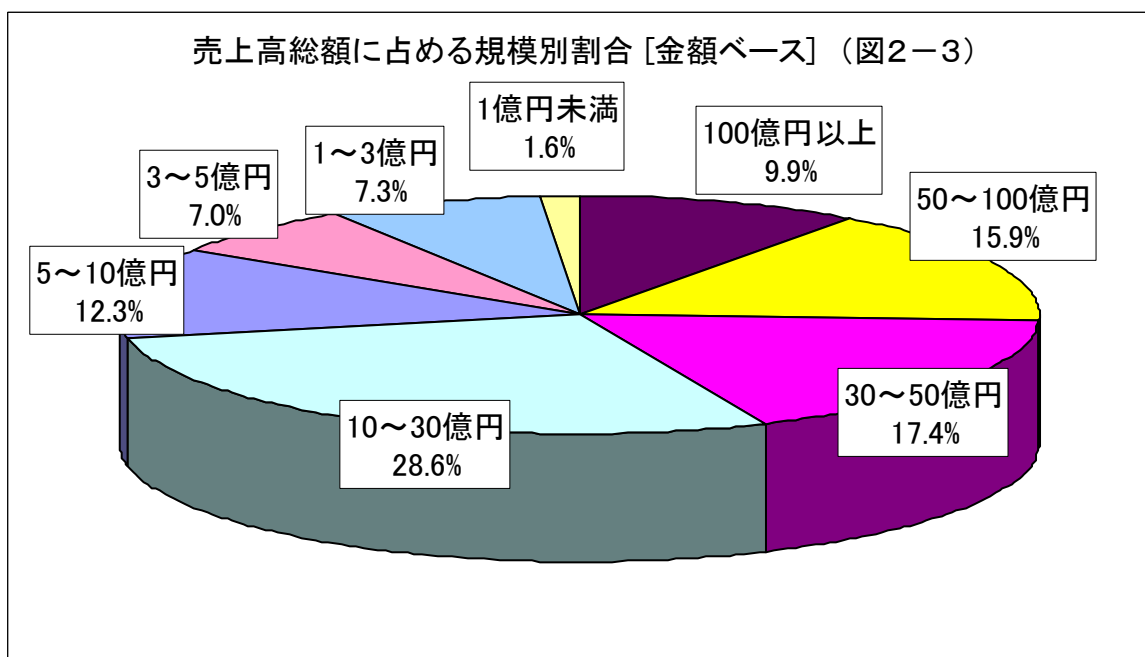
※ 維持は、前年比1%未満の増加及び減少。

## (2) 売上高の規模別業者数

仲卸業者全体のうち、約半数（547社、52.5%）は、売上高が3億円未満の業者となっている。



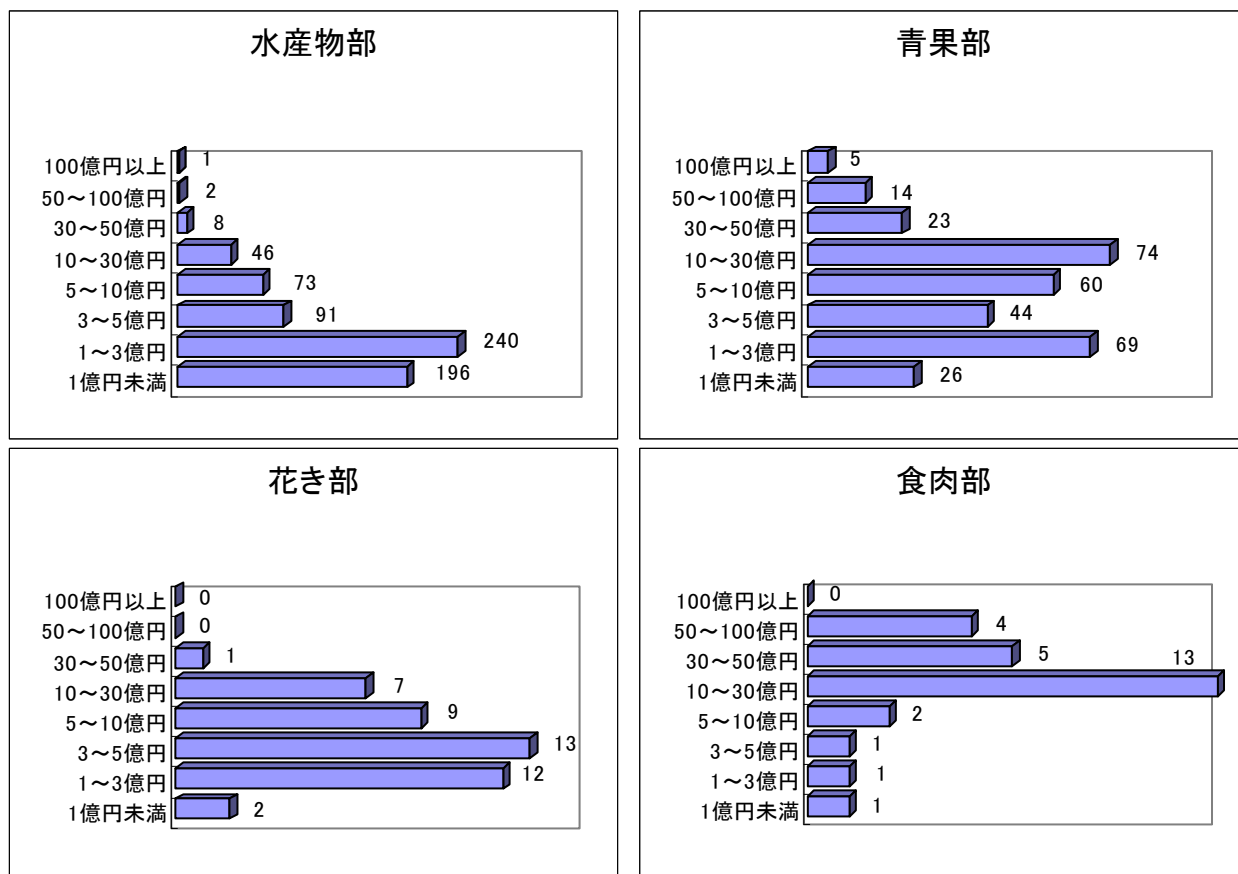
金額ベースにした売上高総額に占める規模別割合で見ると、約半数を占める3億円未満の業者のシェアは8.9%にすぎない。



### (3) 売上高の規模別・部類別業者数

売上高の規模別で見ると、水産物部では1億円～3億円及び1億円未満の層が多く、青果部では10億円～30億円及び1億円～3億円、花き部では3億円～5億円及び1億円～3億円、食肉部では10億円～30億円の層が多くなっている。

売上高規模別・部類別業者数 (図2-4)



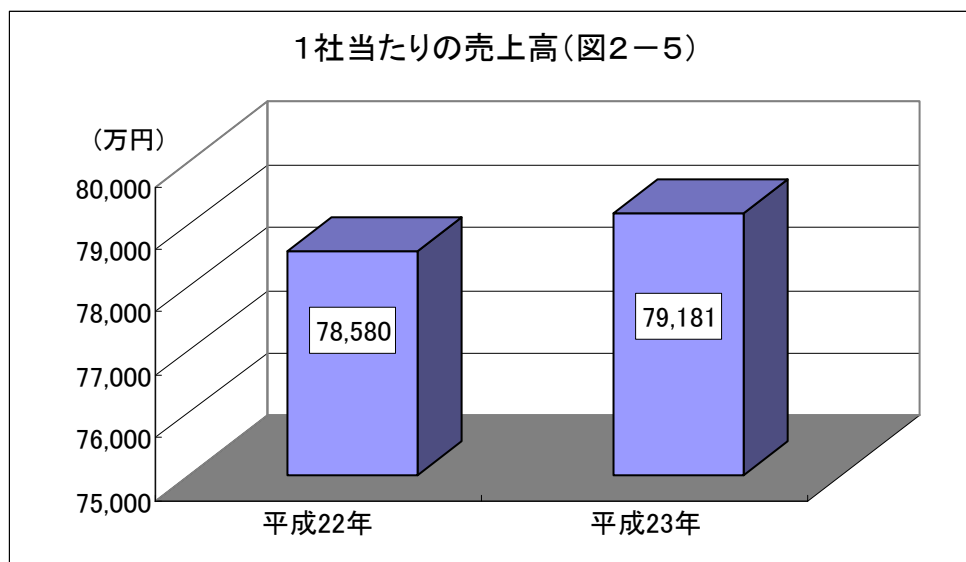
売上高規模別・部類別業者数(表2-2)

単位：社

	全 体	水 産 物 部	青 果 部	花 き 部	食 肉 部
100億円以上	6 (0.6%)	1 (0.2%)	5 (1.6%)	0 (-)	0 (-)
50～100億円	20 (1.9%)	2 (0.3%)	14 (4.4%)	0 (-)	4 (14.8%)
30～50億円	37 (3.5%)	8 (1.2%)	23 (7.3%)	1 (2.3%)	5 (18.5%)
10～30億円	140 (13.4%)	46 (7.0%)	74 (23.5%)	7 (15.9%)	13 (48.2%)
5～10億円	144 (13.8%)	73 (11.1%)	60 (19.0%)	9 (20.5%)	2 (7.4%)
3～5億円	149 (14.3%)	91 (13.9%)	44 (14.0%)	13 (29.5%)	1 (3.7%)
1～3億円	322 (30.9%)	240 (36.5%)	69 (21.9%)	12 (27.3%)	1 (3.7%)
1億円未満	225 (21.6%)	196 (29.8%)	26 (8.3%)	2 (4.5%)	1 (3.7%)
合 計	1,043	657	315	44	27

#### (4) 1社当たりの売上高

仲卸業者全体の1社当たりの売上高は、前年の7億8,580万円から7億9,181万円と、601万円(0.8%)増加した。



部類別に見ると、青果部では増加したが、その他の部類で前年に比べ減少となった。

1社当たりの売上高(表2-3)

	平成22年	平成23年	増減率
全体	78,580 万円	79,181 万円	100.8 %
水産物部	43,518 万円	41,726 万円	95.9 %
青果部	137,184 万円	140,991 万円	102.8 %
花き部	75,542 万円	71,162 万円	94.2 %
食肉部	302,292 万円	282,536 万円	93.5 %

## (5) 売上総利益率の変化

売上総利益率（いわゆる粗利益率）は、全体では前年に比べ0.09%下降した。部類別にみると、花き部及び食肉部では上昇し、水産物部及び青果部では下降した。

売上総利益率（表2-4）

	平成22年	平成23年
全体	12.98%	12.89%
水産物部	15.60%	15.40%
青果部	11.91%	11.82%
花き部	16.15%	16.65%
食肉部	7.79%	8.50%

売上総利益率が上昇した業者数と下降した業者数の割合をみると、全体では6割近い業者が下降した。部類別にみると、花き部及び食肉部では上昇した業者が半数を超えた。その一方で、水産物部及び青果部では下降した業者が半数を超えた。

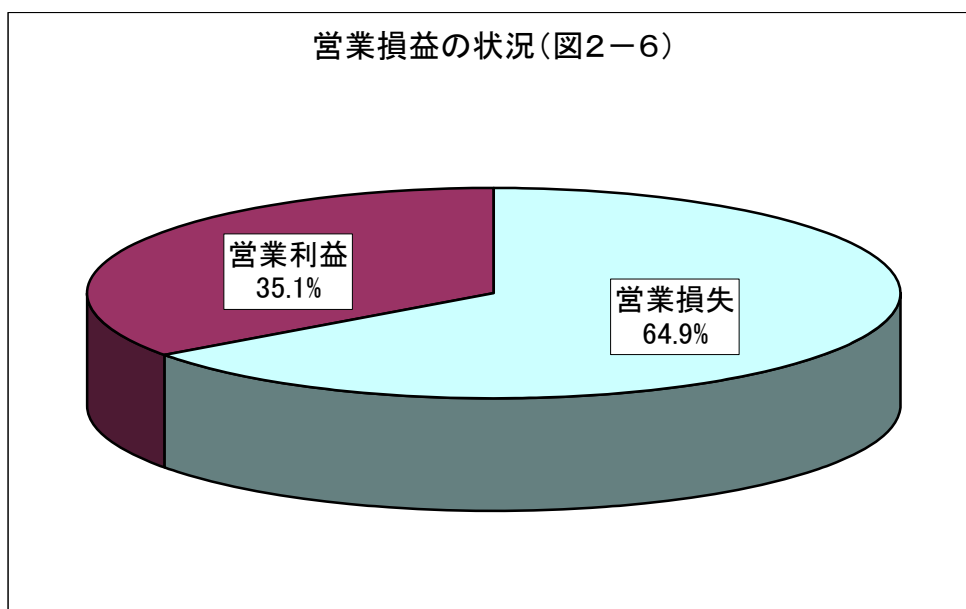
売上総利益率の変化（表2-5）

	上昇した業者	下降した業者	不明
全体	38.4%	57.1%	4.5%
水産物部	34.9%	61.6%	3.5%
青果部	41.9%	50.5%	7.6%
花き部	56.8%	43.2%	(-)
食肉部	51.9%	48.1%	(-)

## (6) 営業損益の状況

営業利益(黒字)を計上した業者が35.1%、営業損失(赤字)を計上した業者が64.9%と、赤字となった業者が多く、前年に比べると、損失を計上した業者が増加した。

※ 前年調査では、黒字：赤字 = 42.0%：58.0%



部類別に営業利益を上げた業者をみると、花き部では半数以上の業者が黒字となっている一方、その他の部類では半数以上の業者が赤字となっている。

営業損益の状況(表2-6)

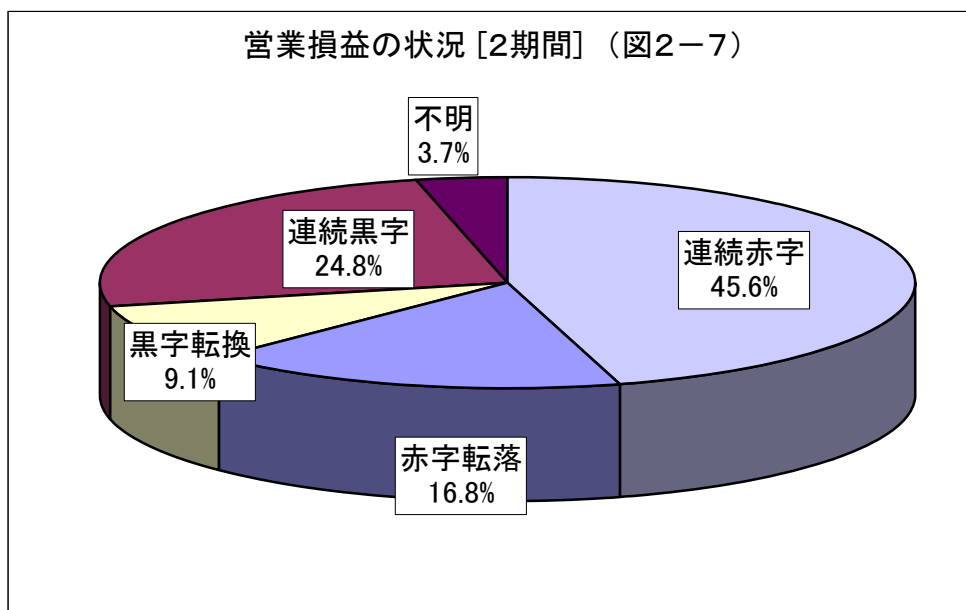
( )内は前年調査の数値

	営業利益 [黒字業者]	営業損失 [赤字業者]
全体	35.1% (42.0%)	64.9% (58.0%)
水産物部	30.3% (40.0%)	69.7% (60.0%)
青果部	41.6% (41.9%)	58.4% (58.1%)
花き部	56.8% (59.1%)	43.2% (40.9%)
食肉部	40.7% (64.3%)	59.3% (35.7%)

## (7) 営業損益の状況 (2期間)

営業損益が2期連続して黒字計上となった業者数は24.8%、連続赤字計上の業者は45.6%となった。黒字に転換した業者は9.1%、赤字に転落した業者は16.8%となった。

※ 前年調査 連続黒字29.5%、連続赤字40.5%、黒字転換10.4%、赤字転落15.8%



部類別でみると、2期連続黒字となった業者は、最も多い花き部で40.9%であった。また、赤字に転落した業者数の割合及び連続赤字となった業者数の割合は、青果部を除く、その他の部類で前年よりも高くなった。

営業損益の状況 (2期間) (表2-7)

( )内は前年調査の数値

	連続黒字業者	黒字転換業者	赤字転落業者	連続赤字業者	不明
全体	24.8% (29.5%)	9.1% (10.4%)	16.8% (15.8%)	45.6% (40.5%)	3.7% (3.8%)
水産物部	21.2% (26.6%)	8.4% (11.5%)	18.7% (16.7%)	48.6% (41.4%)	3.1% (3.8%)
青果部	29.2% (30.6%)	10.2% (8.7%)	11.4% (12.9%)	43.8% (43.2%)	5.4% (4.6%)
花き部	40.9% (47.7%)	15.9% (9.1%)	18.2% (20.5%)	25.0% (20.5%)	0.0% (2.2%)
食肉部	37.1% (60.7%)	3.7% (3.5%)	29.6% (17.9%)	29.6% (17.9%)	0.0% (—)

## (8) 営業利益率の変化

営業利益率は、全体としては前年に比べ若干下降した。部類ごとにみると、青果部及び食肉部は若干上昇しているが、水産物部及び花き部は下降し、マイナスとなった。

営業利益率（表 2 - 8）

	平成 22 年	平成 23 年
全 体	0.08 %	0.03 %
水産物部	△0.26 %	△0.83 %
青果部	0.30%	0.50%
花き部	0.10 %	△0.03 %
食肉部	0.20 %	0.43 %

営業利益率の変化を上昇した業者数と下降した業者数の割合で見ると、青果部を除き、全ての部類で下降した業者が半数以上となった。

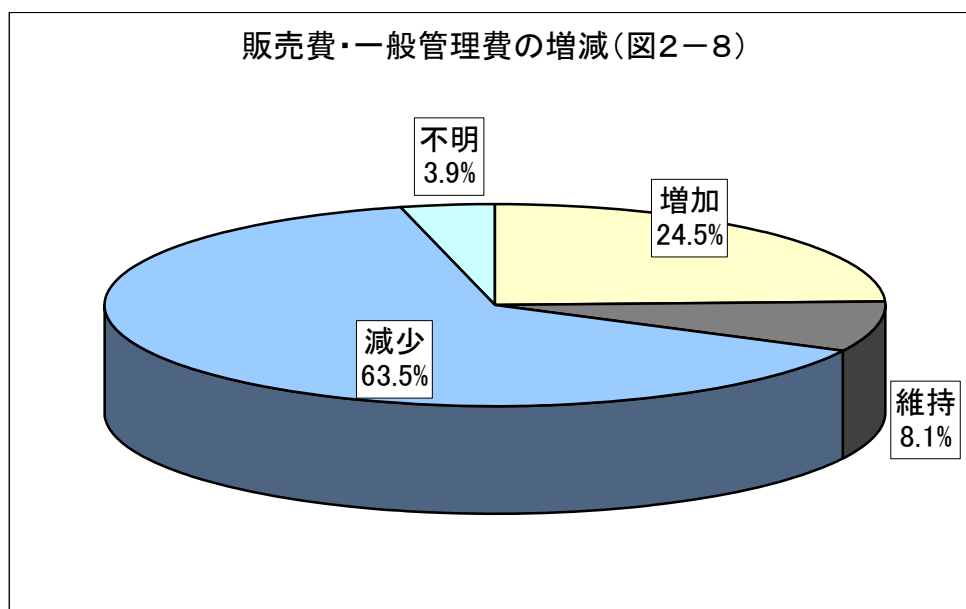
営業利益率の変化（表 2 - 9）

	上昇した業者	下降した業者	不明
全 体	40.4 %	55.5 %	4.1 %
水産物部	37.1 %	59.7 %	3.2 %
青果部	48.3 %	44.8 %	6.9 %
花き部	43.2 %	56.8 %	(-)
食肉部	22.2 %	77.8 %	(-)



## (9) 販売費及び一般管理費の増減

販売費及び一般管理費（以下、「販管費」）が減少した業者は63.5%であり、増加した業者は24.5%となった。



食肉部では販管費が増加した業者が減少した業者を若干上回った。その他の部類では、販管費が減少した業者が増加した業者を大きく上回った。

販売費・一般管理費の増減（表2-10）

	増加した業者	維持した業者	減少した業者	不明
全体	24.5 %	8.1 %	63.5 %	3.9 %
水産物部	19.3 %	6.8 %	70.6 %	3.3 %
青果部	32.7 %	9.8 %	51.1 %	6.4 %
花き部	27.3 %	15.9 %	56.8 %	(-)
食肉部	51.9 %	3.7 %	44.4 %	(-)

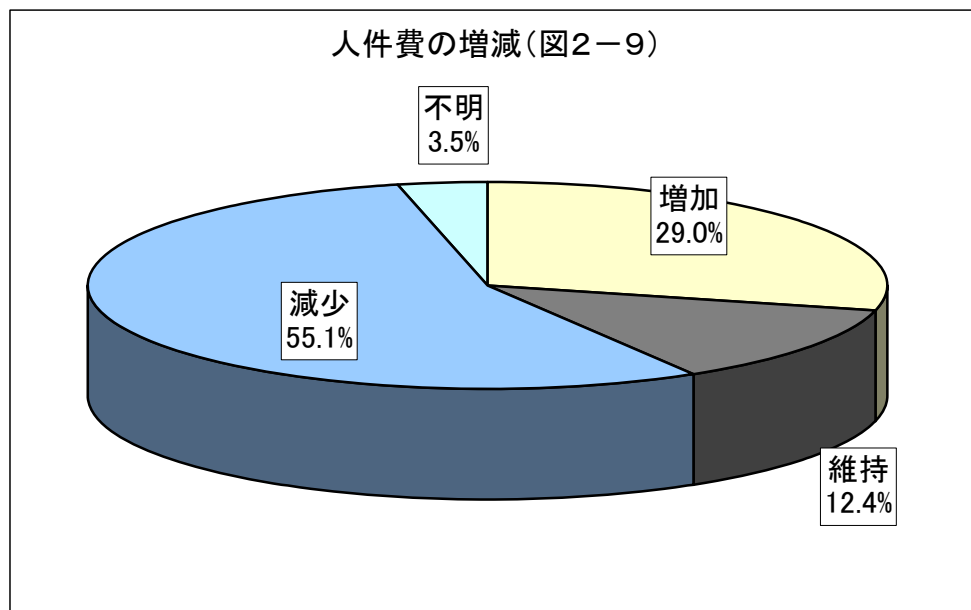
※ 維持は、前年比1%未満の増加及び減少。

## (10) 人件費の増減

販管費の大半を占める人件費（※）が減少した業者は 55.1%、増加した業者は 29.0%、維持した業者は 12.4% となり、前年同様、減少した業者が増加した業者をかなり上回った。

※ 人件費とは、役員報酬、給与手当、福利厚生費、退職共済掛金など

※ 前年調査 減少 51.5%、維持 11.7%、増加 32.8%、不明 4.0%



部類別に見ると、全ての部類で減少した業者が増加した業者を上回った。

人件費の増減（表2-11）

	増加した業者	維持した業者	減少した業者	不明
全体	29.0 %	12.4 %	55.1 %	3.5 %
水産物部	24.7 %	12.9 %	59.2 %	3.2 %
青果部	36.8 %	10.5 %	47.9 %	4.8 %
花き部	31.8 %	13.6 %	52.3 %	2.3 %
食肉部	37.0 %	18.5 %	44.5 %	(-)

※ 維持は、前年比 1%未満の増加及び減少。

### (11) 人件費比率の変化

売上高対人件費比率は、全体では前年に比べ微増している。部類別に見ると、青果部は減少し、その他の部類は増加している。

売上高対人件費比率（表2-12）

	平成22年	平成23年
全体	7.17%	7.18%
水産物部	9.52%	9.92%
青果部	6.09%	5.96%
花き部	9.38%	9.60%
食肉部	3.38%	3.50%

売上総利益対人件費比率は、全体では前年に比べ若干増加している。部類別に見ると、水産物部は増加し、その他の部類は減少している。

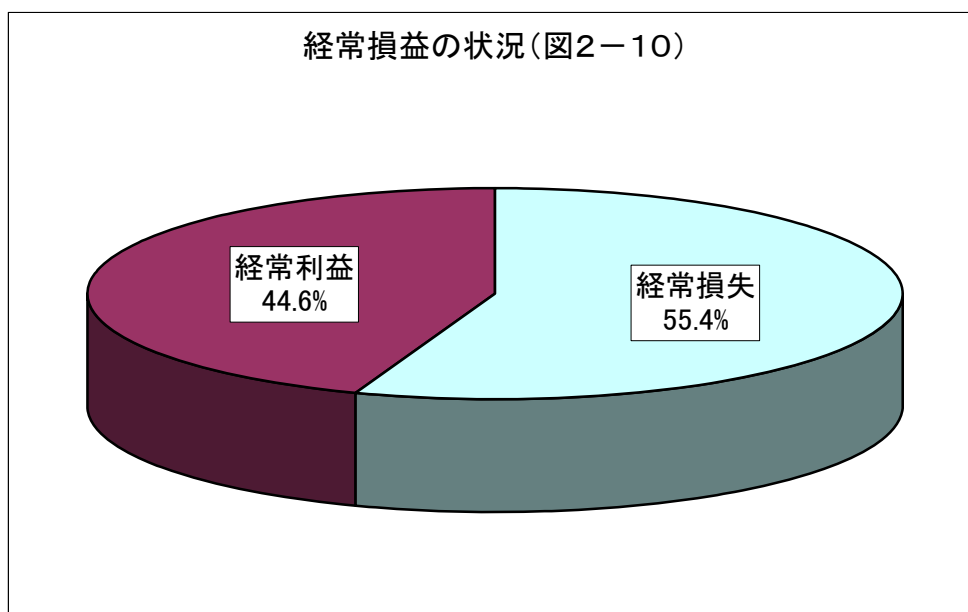
売上総利益対人件費比率（表2-13）

	平成22年	平成23年
全体	55.24%	55.74%
水産物部	61.01%	64.38%
青果部	51.12%	50.39%
花き部	58.07%	57.66%
食肉部	43.38%	41.16%

## (12) 経常損益の状況

経常利益(黒字)を計上した業者数の割合が44.6%、経常損失(赤字)を計上した業者数の割合が55.4%と、前年に比べ赤字業者数の割合が5ポイント増加した。

※ 前年調査では、黒字：赤字 = 49.8%：50.2%



前年と比較すると、青果部及び花き部において黒字業者数の割合が増加したが、水産物部及び食肉部では下降しており、特に水産物部は赤字業者数の割合が6割を超えた。

経常損益の状況(表2-14)

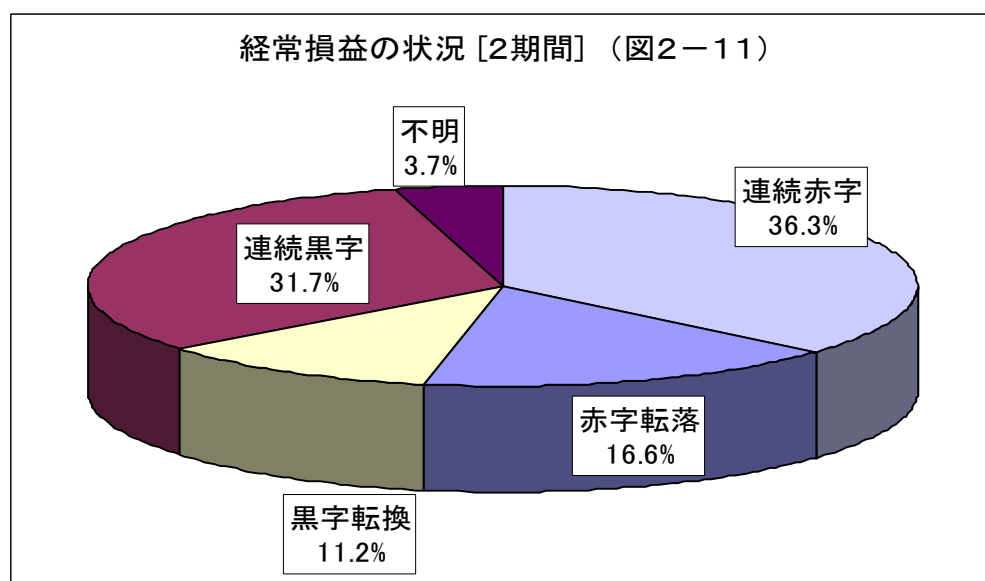
( )内は前年調査の数値

	経常利益 [黒字業者]	経常損失 [赤字業者]
全体	44.6% (49.8%)	55.4% (50.2%)
水産物部	38.4% (46.8%)	61.6% (53.2%)
青果部	53.0% (51.9%)	47.0% (48.1%)
花き部	68.2% (65.9%)	31.8% (34.1%)
食肉部	59.3% (75.0%)	40.7% (25.0%)

### (13) 経常損益の状況 (2期間)

経常損益が2期連続して黒字計上となった業者数の割合は31.9%だった。一方で、連続して赤字計上の業者数の割合が36.3%となり、前年に比べると連続黒字業者数が若干減少した。また、黒字に転換した業者数の割合が11.2%、赤字に転落した業者数の割合が16.9%となった。

※ 前年調査 連続黒字36.0%、連続赤字31.3%、黒字転換11.6%、赤字転落17.2%



部類別では、連続黒字業者数の割合は花き部及び食肉部で5割を超えているが、水産物部及び青果部では4割に届かなかった。

経常損益の状況 (2期間) (表2-15)

( ) 内は前年調査の数値

	連続黒字業者	黒字転換業者	赤字転落業者	連続赤字業者	不明
全体	31.9% (36.0%)	11.2% (11.6%)	16.9% (17.2%)	36.3% (31.3%)	3.7% (3.9%)
水産物部	27.2% (31.5%)	10.4% (13.3%)	18.7% (17.5%)	40.5% (34.0%)	3.2% (3.7%)
青果部	36.8% (41.9%)	13.0% (7.4%)	13.3% (16.1%)	31.4% (30.0%)	5.5% (4.6%)
花き部	52.3% (47.7%)	15.9% (15.9%)	13.6% (22.7%)	18.2% (11.4%)	(-)(2.3%)
食肉部	55.6% (64.3%)	3.7% (10.7%)	18.5% (14.3%)	22.2% (10.7%)	(-)(-)

#### (14) 経常利益率の変化

経常利益率を見ると、全体では0.28%から0.17%へと下降した。部類ごとにみると、青果部でわずかに上昇したものの他の部類では大きく下降した。

経常利益率（表2-16）

	平成22年	平成23年
全体	0.28%	0.17%
水産物部	0.01%	△0.44%
青果部	0.43%	0.59%
花き部	0.20%	△0.05%
食肉部	0.48%	△0.02%

経常利益率の変化を上昇した業者数と下降した業者数の割合で見ると、青果部では上昇した業者が下降した業者をわずかに上回っているが、その他の部類において半数以上の業者が下降した。

経常利益率の変化（表2-17）

	上昇した業者	下降した業者	不明
全体	41.4%	54.5%	4.1%
水産物部	38.2%	58.6%	3.2%
青果部	49.5%	43.5%	7.0%
花き部	38.6%	61.4%	(-)
食肉部	29.6%	70.4%	(-)

### (15) 従事員1人当たり売上高

従事員1人当たり売上高は、青果部及び花き部において増加したが、水産物部及び食肉部では減少している。

従事員1人当たり売上高(表2-18)

	平成22年	平成23年
全体	7,462 万円	7,471 万円
水産物部	5,469 万円	5,230 万円
青果部	9,183 万円	9,376 万円
花き部	4,675 万円	4,862 万円
食肉部	18,242 万円	17,699 万円

従事員1人当たり売上高の増減を業者数の割合で見ると、全体では減少した業者が多かった。部類別にみると、青果部では増加した業者が上回ったが、その他の部類では減少した業者が5割以上となっている。

従事員1人当たり売上高の増減(表2-19)

	増加した業者	減少した業者	不明
全体	41.0 %	55.1 %	3.9 %
水産物部	36.1 %	60.3 %	3.6 %
青果部	51.1 %	43.8 %	5.1 %
花き部	40.9 %	59.1 %	(-)
食肉部	44.4 %	55.6 %	(-)

## (16) 従事員1人当たり売上総利益

従事員1人当たり売上総利益を見ると、水産物部では減少し、その他の部類においては増加した。

従事員1人当たり売上総利益(表2-20)

	平成22年	平成23年
全体	969 万円	963 万円
水産物部	853 万円	806 万円
青果部	1,093 万円	1,108 万円
花き部	755 万円	809 万円
食肉部	1,420 万円	1,504 万円

従事員1人当たり売上総利益の増減を増加した業者数と減少した業者数の割合でみると、全体で減少した業者が多かった。部類別にみても、すべての部類で同数か減少した業者が多かった。

従事員1人当たり売上総利益の増減(表2-21)

	増加した業者	減少した業者	不明
全体	37.6 %	58.6 %	3.8 %
水産物部	32.1 %	64.2 %	3.7 %
青果部	46.7 %	48.3 %	5.0 %
花き部	50.0 %	50.0 %	(-)
食肉部	44.4 %	55.6 %	(-)



### (17) 従事員1人当たり人件費

従事員1人当たり人件費をみると、花き部では増加したが、その他の部類で大きな変化はなかった。

従事員1人当たり人件費(表2-22)

	平成22年	平成23年
全体	535 万円	537 万円
水産物部	521 万円	519 万円
青果部	559 万円	559 万円
花き部	439 万円	467 万円
食肉部	616 万円	619 万円

部類別に従事員1人当たり人件費の増減を増加した業者数と減少した業者数の割合で見ると、食肉部を除き、その他の部類で減少した業者数の割合が5割以上となった。

従事員1人当たり人件費の増減(表2-23)

	増加した業者	減少した業者	不明
全体	42.5 %	53.7 %	3.8 %
水産物部	40.5 %	55.9 %	3.6 %
青果部	44.4 %	50.5 %	5.1 %
花き部	50.0 %	50.0 %	(-)
食肉部	55.6 %	44.4 %	(-)